

公民館活動 1年間の集大成

3月11日、氷川町文化センターにおいて、平成23年度 氷川町公民館大会が行われました。大会に先立ち、東日本大震災で亡くなられた多くの方々に対し黙祷を捧げ、開会となりました。大会では、主催者あいさつ・来賓祝辞に続き、公民館講座の活動発表や講演などがあり、婦人会活動報告を黒田京子会長が、氷川町総合型地域スポーツクラブ報告を山高安廣理事長が、大野窟古墳報告を生涯学習課 今田治代主幹が行いました。

次に、料理講座講師 河野京子さん指導による米粉ピザ、カリフラワーの塩こうじポタージュ、生姜の佃煮などが試食として参加者に提供され、大変好評でした。

その後、「地域の中でともに生きる」と題して、八代市とら太の会理事長 山下順子さんによる講演があり、自分の生い立ちや、園を立ち上げたきっかけ、人と人とのふれあいを大事にしながら、今日まで至っていることなどを話されました。



▲講演を行う山下順子さん

「ひなまつり展」延べ7000人が来館

氷川町まちづくり酒屋で行われていた「ひなまつり展」が3月25日をもって終了。期間中は、来館された皆さまを、お茶とあられのおもてなしで迎えました。

今年は、10周年記念ということで、さまざまな企画が計画されて、中でも、3月4日には、“ひかりん”と“くまモン”のコラボが実現。くまモン体操や記念撮影が行われるなどたくさん子ども連れでにぎわいました。

また、2月11日に続き、2回目となった琴演奏会では、八代白百合学園高校箏曲部町内生徒2年生の橋本香保里さん（下宮）と作村琴音さん（桜ヶ丘）、同校卒業生で橋本美咲さん（下宮）が演奏。3人の奏でる美しい音色に、訪れた方々は耳を澄ませ聴き入っていました。

そのほか、氷川町産トマトを使ったスイーツでのおもてなしを行い、10周年を記念しての抽選会では、10人に氷川町産物が当たるなど大盛況となりました。



▲見とれてしまう美しさ



▲左から橋本香保里さん、橋本美咲さん、作村琴音さん



▲“ひかりん”と“くまモン”豪華共演!!

親子で楽しくふれあって

3月4日、竜北公園において、「親子ふれあいまつり」（熊本県母子寡婦福祉連合会主催）が行われ、町内外より約500人が参加しました。

まつりは、ひのきみ太鼓の勇壮な演奏で華やかに開幕。ひかりんも参加しての、親子レクリエーションゲームやくまモン隊のくまモン体操、写真撮影などがありました。

また、会場内ではバザーの出店もあり、子どもたちの笑顔が溢れました。



▲太鼓に興味津々!

春の風物詩『初市』開催!

3月3・4日、10日に、初市 ふれあいまつり、よかばいまつりが行われました。

まつりでは、商工会女性部によるつくたて餅の販売や、氷川物産振興協議会による特産品の試食会、ひのきみ太鼓の演奏などがありました。

また、会場周辺には、植木や花、陶器販売のお店も並び、多くの買い物客でにぎわいました。



▲餅の無料配布には行列が!

中学生134人 涙の卒業式

3月10日、町内中学校において、卒業式が行われました。

取材に訪れた氷川中学校では、生徒会長の竹尾貴成君が「自分は良い友だちに恵まれていた。これからも、氷川魂を胸にさまざまなことに挑戦していきたい」と答辞を述べ、続いて、一人ひとりが家族や恩師へ感謝の言葉を熱く語りました。

たくましく成長した生徒たちは、たくさんの思い出を胸に3年間親しんだ学び舎を巣立って行きました。



▲一人ひとりに卒業証書が手渡されました

さくらの花を咲かせましょう

3月11日、竜北公園において、さくら植樹式が行われ、藤本町長をはじめ関係者50人が出席しました。

これは、町花である桜を大切に、まちづくりに生かしていくことを目的としています。

さくら（ソメイヨシノ）は、平成23年度 宝くじ助成事業の一環として、「日本さくらの会」より贈られたもので、東日本大震災からちょうど1年目ということもあり、復興祈念の意味も込め植樹されました。

この日は、公園内に30本植えられたほか、希望のあった地区への贈呈式も行われました。



▲左から笠原議長、日本さくらの会会員 徳田氏、藤本町長